



新光商事 株式会社
Shinko Shoji Co., Ltd.

2014年3月期決算説明会

- 決算の概要
- 今後の施策
- 当期の見通し

2014年5月20日
代表取締役社長 小川 達哉

このプレゼンテーション資料で述べられている当社の将来に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。

あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいることから、実際の業績は大きく異なる結果となることがあります。

それらのリスクや不確定要素の主なものは、以下のとおりです。

- ・主要市場（日本、アジア等）の経済状況、消費動向
- ・エレクトロニクス産業の業界動向・技術トレンド等の変化
- ・当社の主要製品市場における需給の急激な変動
- ・ドル等外国通貨の対円為替相場的大幅な変動



決算の概要



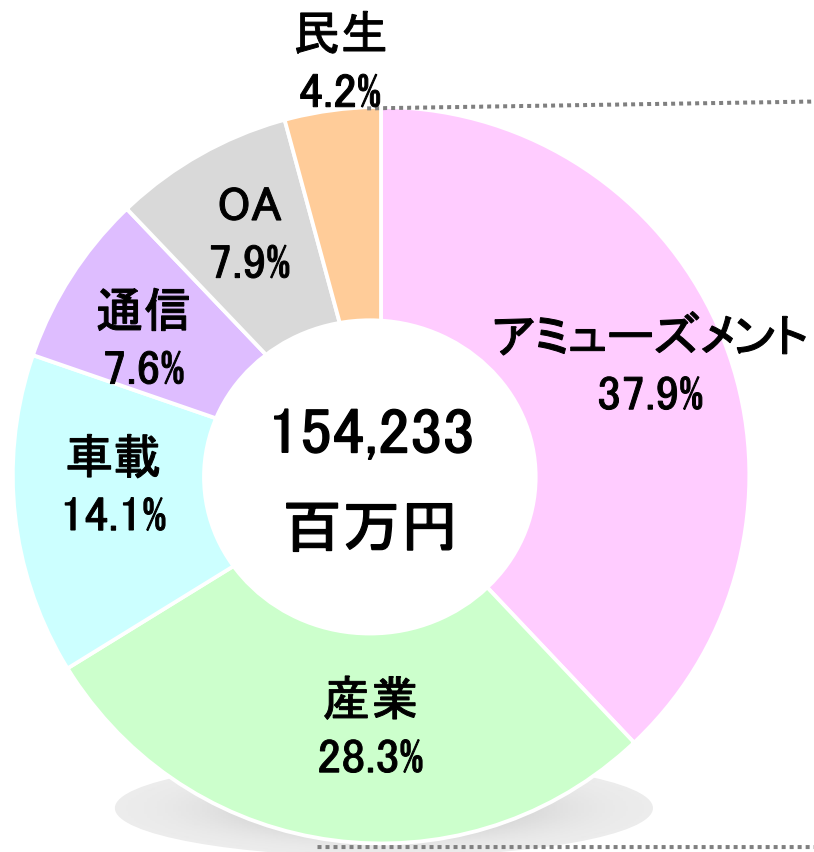
2014年3月期 決算のポイント

前年度比で売上は減少なるも、増益を達成。

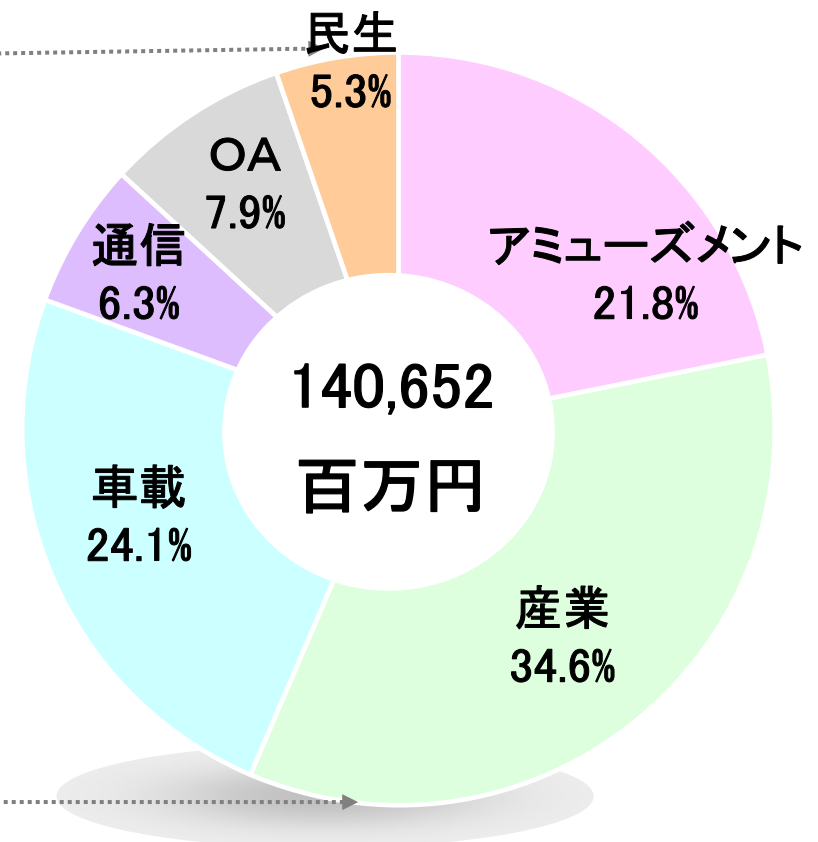
- リユース促進に伴う新規部材減により、
娯楽機器関連は前年度比で大幅な売上減。
- 車載・産業関連は好調に推移し、前年度比で売上増。
- 日本テキサス・インスツルメンツ事業の譲渡により、
特別利益を計上。

分野別売上構成

【2013年3月期】



【2014年3月期】



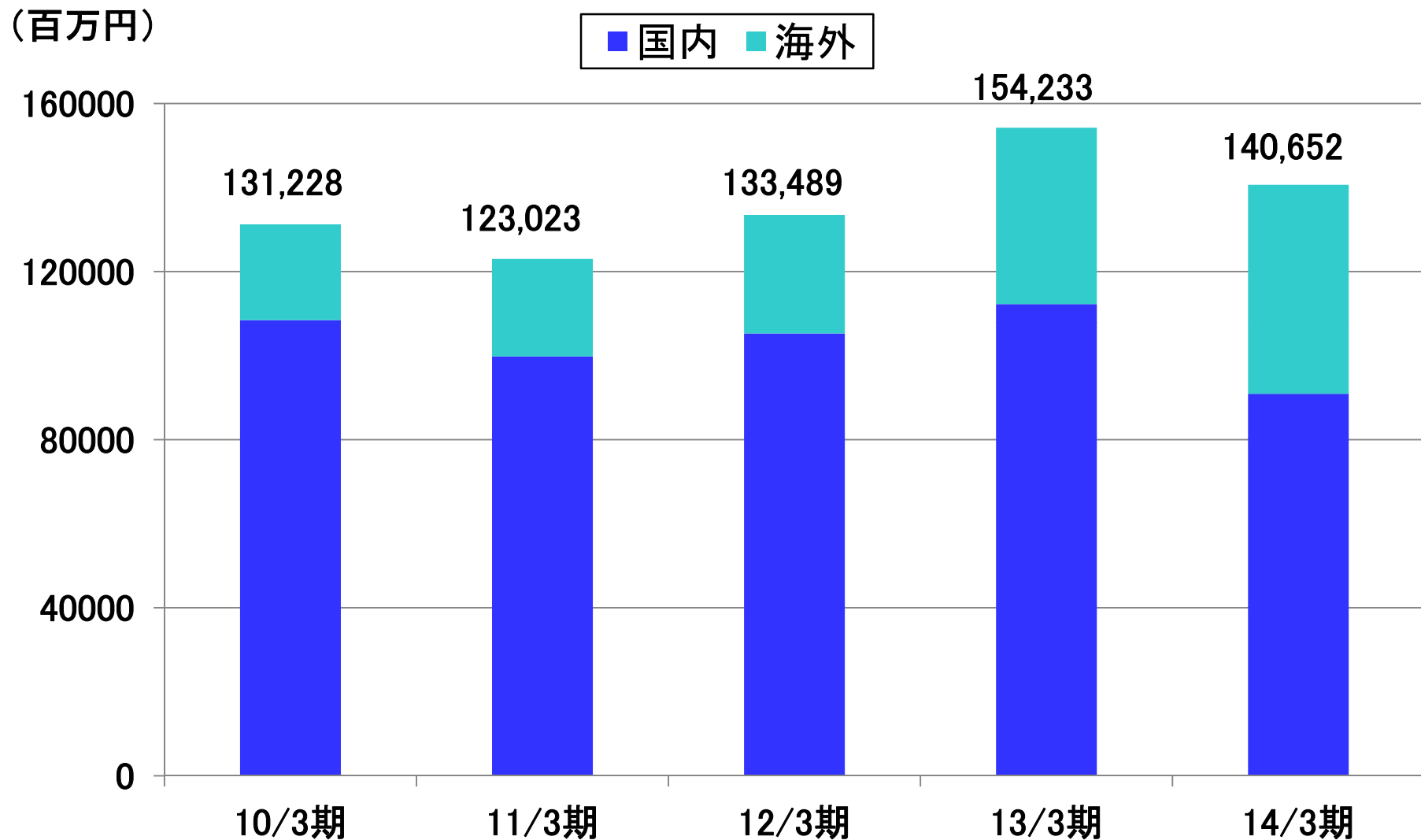
(注) 決算短信のセグメントは電子部品事業、アッセンブリ事業、
その他事業の三種類(後述)。

決算概要 前年度比較

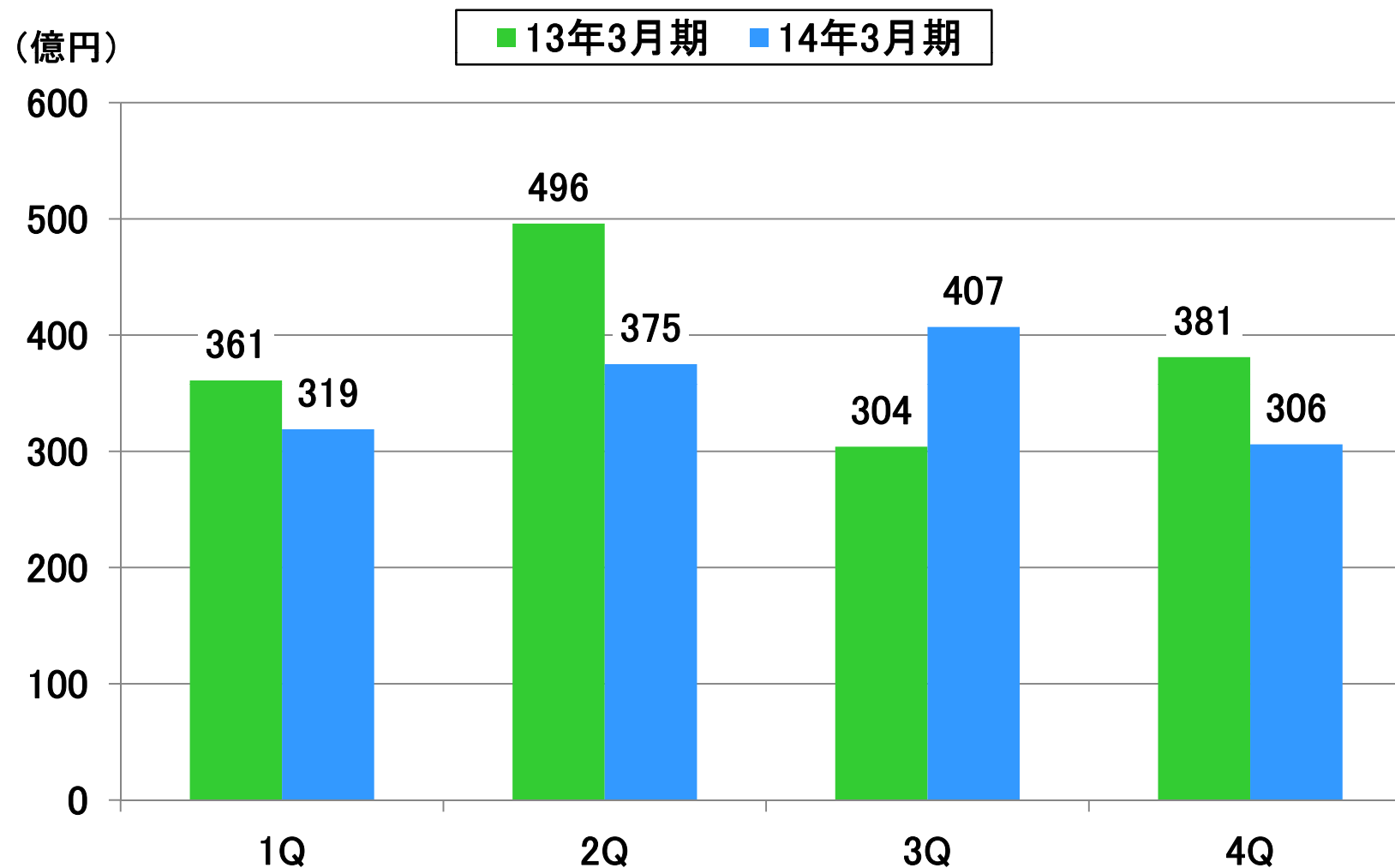
(百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	前期比伸長	前期比増減	業績予想 (2/28発表)
売上高	154,233	140,652	91%	△13,581	141,000
売上総利益	11,604	11,667	101%	63	—
販管費	7,648	7,591	99%	△57	—
営業利益	3,956	4,075	103%	119	3,700
経常利益	4,264	4,088	96%	△176	3,800
当期純利益	2,313	2,718	118%	405	2,450
1株当たり 当期純利益	94円62銭	114円62銭	—	20円00銭	103円28銭
1株当たり 配当金(年間)	30円00銭	40円00銭	—	10円00銭	40円00銭

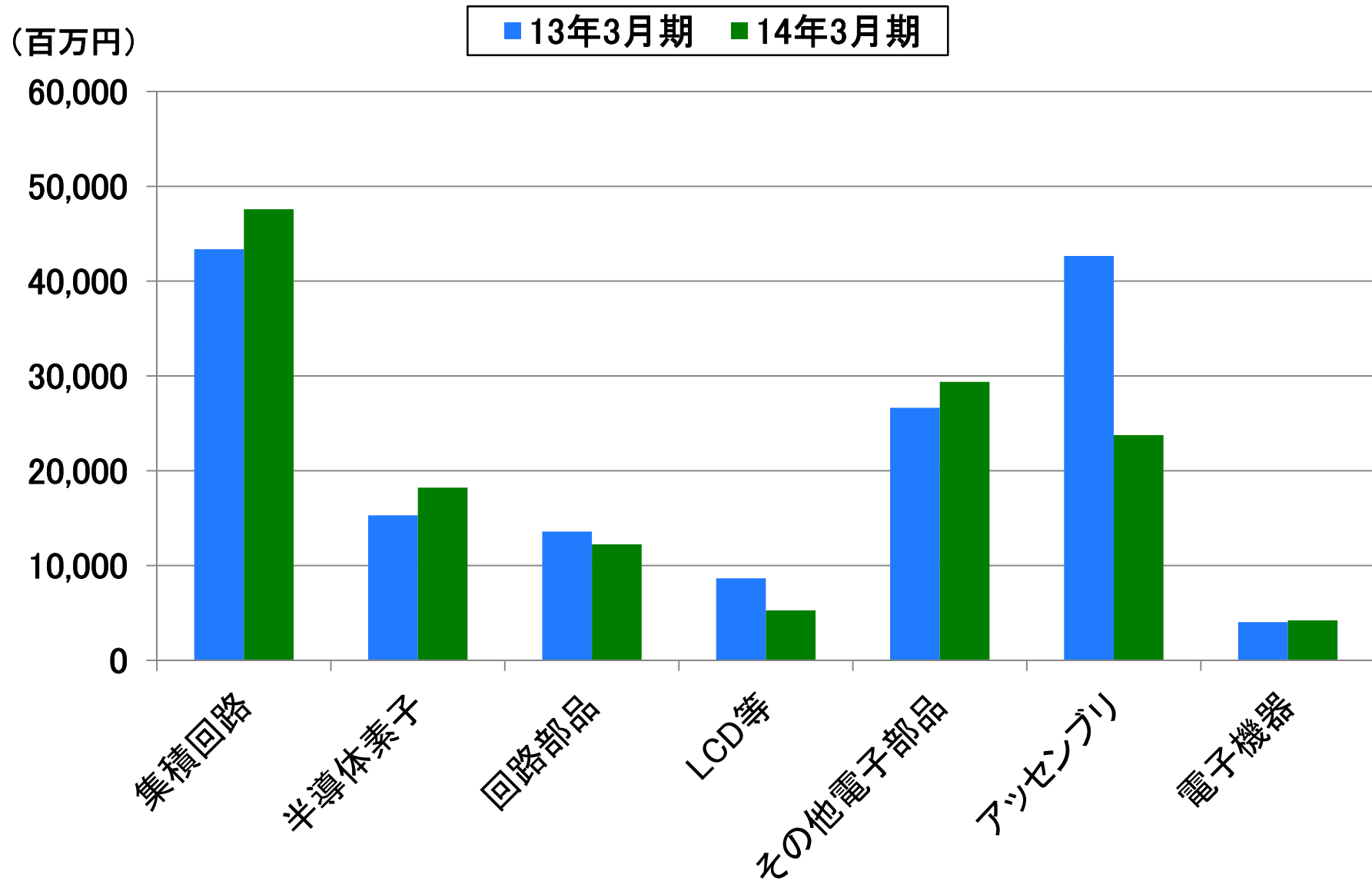
売上高推移



四半期毎売上高 前年度比較

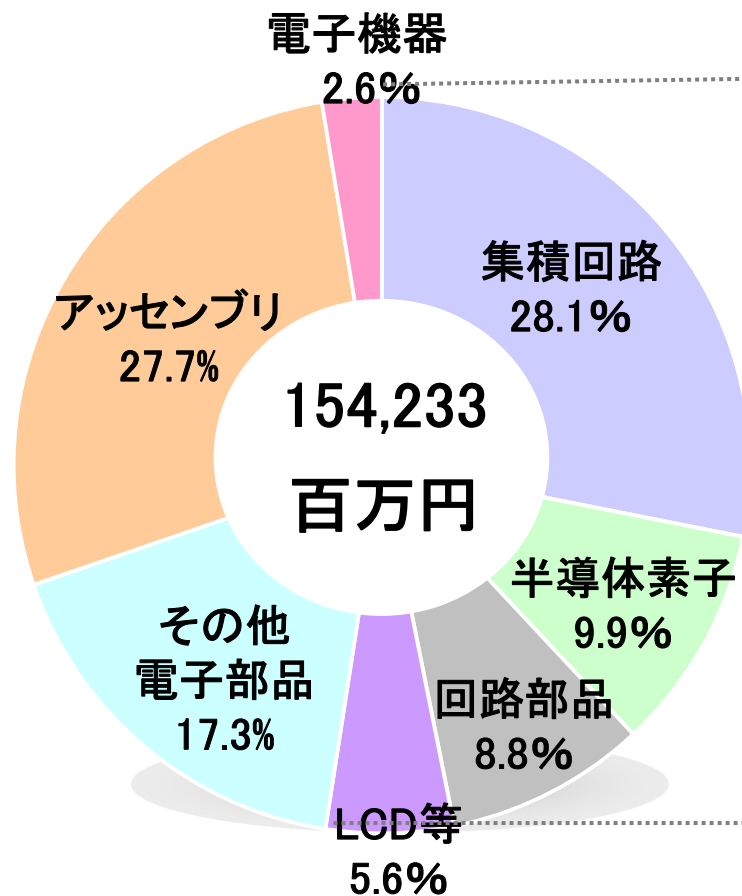


品種別売上高 前年度比較①

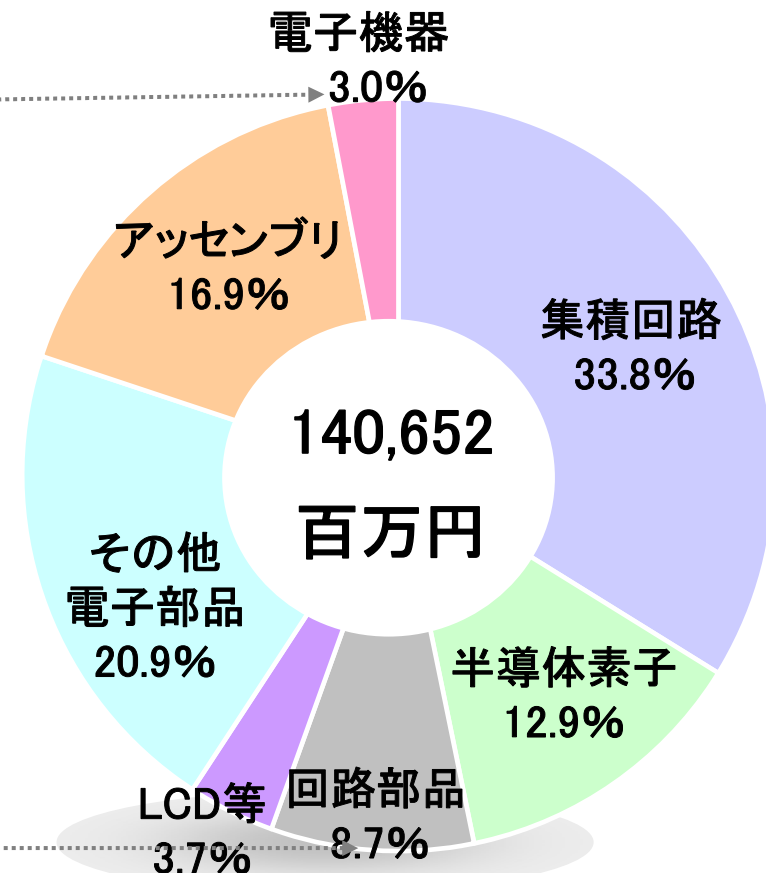


品種別売上高 前年度比較②

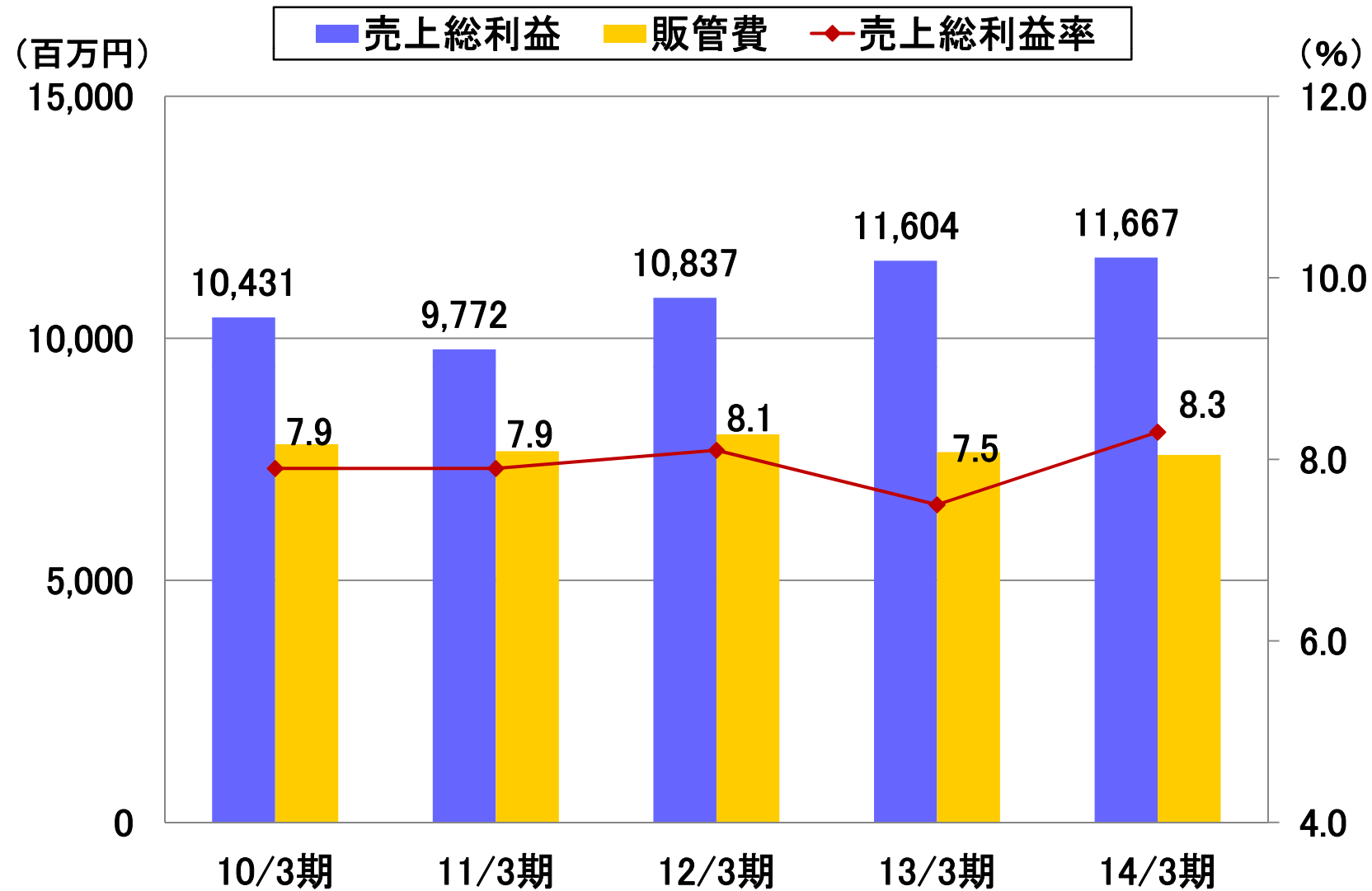
【2013年3月期】



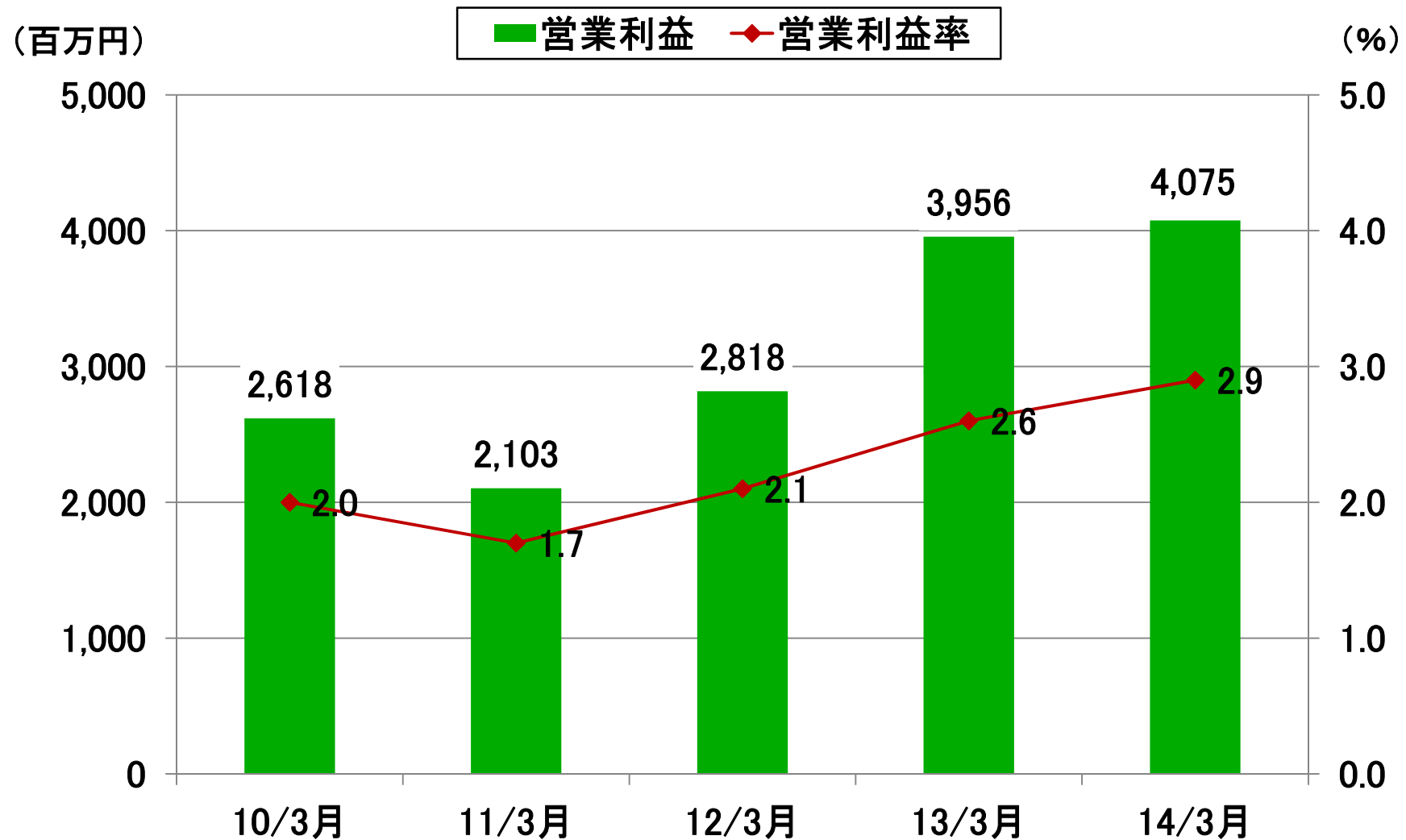
【2014年3月期】



売上総利益/売上総利益率/販管費 推移



営業利益/営業利益率 推移



営業外損益・特別損益等の主な増減要因(増減分析)

	2013年3月期	2014年3月期	増減額
営業利益	3,956	4,075	119
営業外損益	308	12	△296
経常利益	4,264	4,088	△276

特別利益	11	418	407
内、事業譲渡益	0	340	340
特別損失	45	21	△24
内、固定資産売却・除却損	6	15	9
税金等調整前当期純利益	4,231	4,485	254

法人税等	1,276	1,636	360
少数株主利益	24	34	10
当期純利益	2,313	2,718	405

要約貸借対照表①

(百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	増減額
資産合計	79,752	80,086	334
流動資産	73,183	73,652	469
内、現金及び預金	22,341	15,394	△6,947
有価証券	—	6,999	6,999
受取手形及び売掛金	32,309	30,803	△1,506
たな卸資産	12,004	12,664	660
固定資産	6,569	6,433	△135
内、投資有価証券	2,565	2,866	301
繰延税金資産	26	28	2

要約貸借対照表②

(百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	増減額
負債合計	29,439	26,519	△2,920
流動負債	24,934	22,308	△2,626
内、支払手形及び買掛金	19,882	16,576	△3,306
短期借入金	1,396	1,817	421
固定負債	4,504	4,211	△293
長期借入金	3,000	2,500	△500

純資産合計	50,312	53,566	3,254
内、資本金及び資本剰余金	19,101	19,101	0
利益剰余金	32,306	34,393	2,087
自己資本比率	62.5%	66.3%	—

キャッシュ・フロー

(百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	推移額
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,387	△1,075	5,312
投資活動によるキャッシュ・フロー	△931	1,061	130
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,463	△860	△2,313

(前年度比)

現金及び現金同等物の期末残高	22,059	21,931	△128
----------------	--------	--------	------



事業譲渡に関する報告



日本テキサス・インスツルメンツ事業の譲渡完了について

【事業譲渡の概要】

日本テキサス・インスツルメンツの販売代理店事業につきまして、株式会社ケイティーエルへの譲渡が完了致しました。

※平成26年2月28日 東京証券取引所にて適時開示済。

- ・譲渡の結果、本事業に従事する役職員のうち、55名が株式会社ケイティーエルへ移籍。
- ・2014年3月期決算にて、事業譲渡益として、特別利益340百万円を計上。



今後の施策



1 ルネサス・エレクトロニクスとのビジネスについて

2 新規仕入先の開拓について

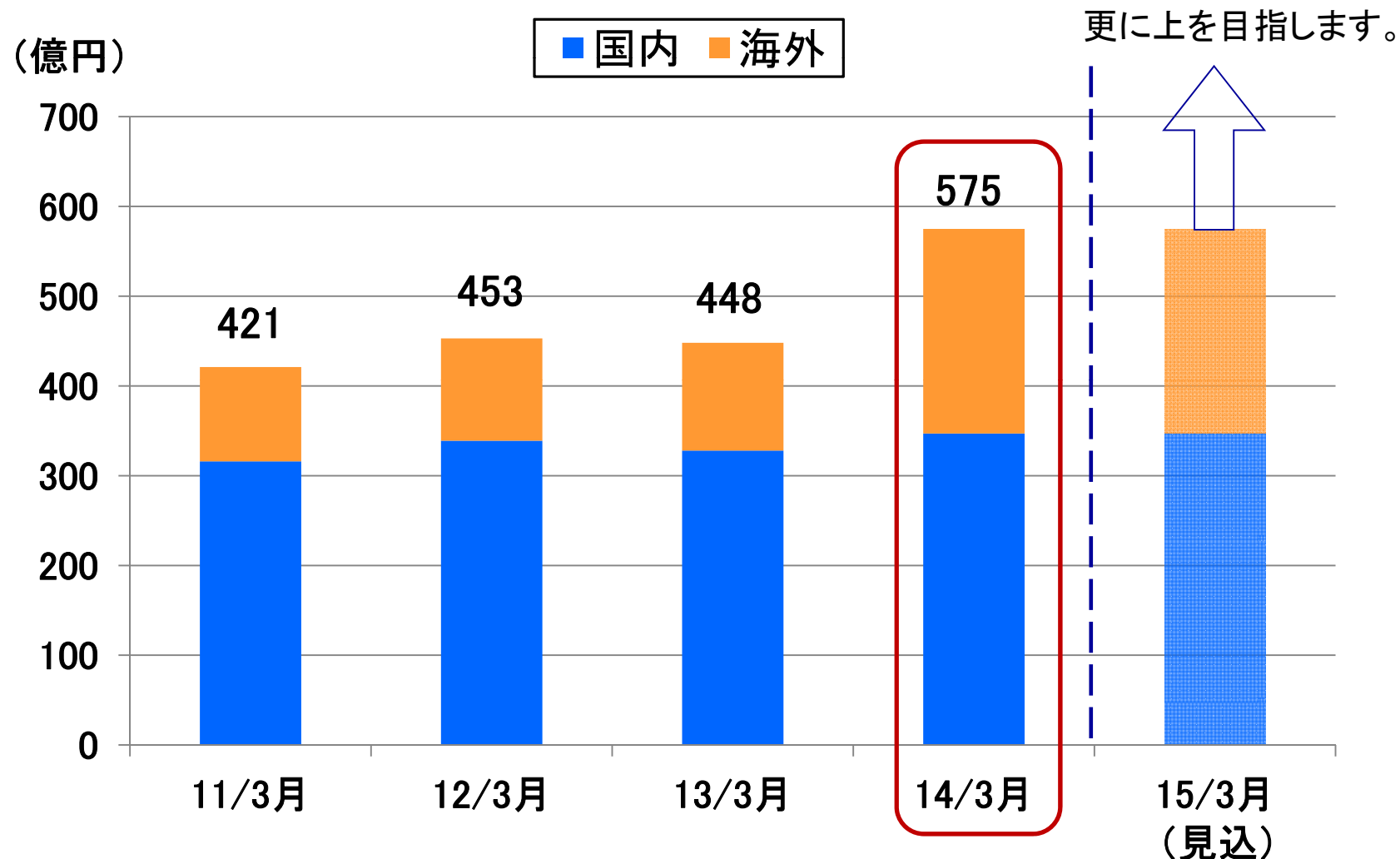
3 車載・産業関連ビジネスへの取組みについて

4 アッセンブリビジネスの状況について

5 娯楽機器事業の現状と見通し

1.ルネサスエレクトロニクスとのビジネスについて①

【ルネサスエレクトロニクス売上推移】



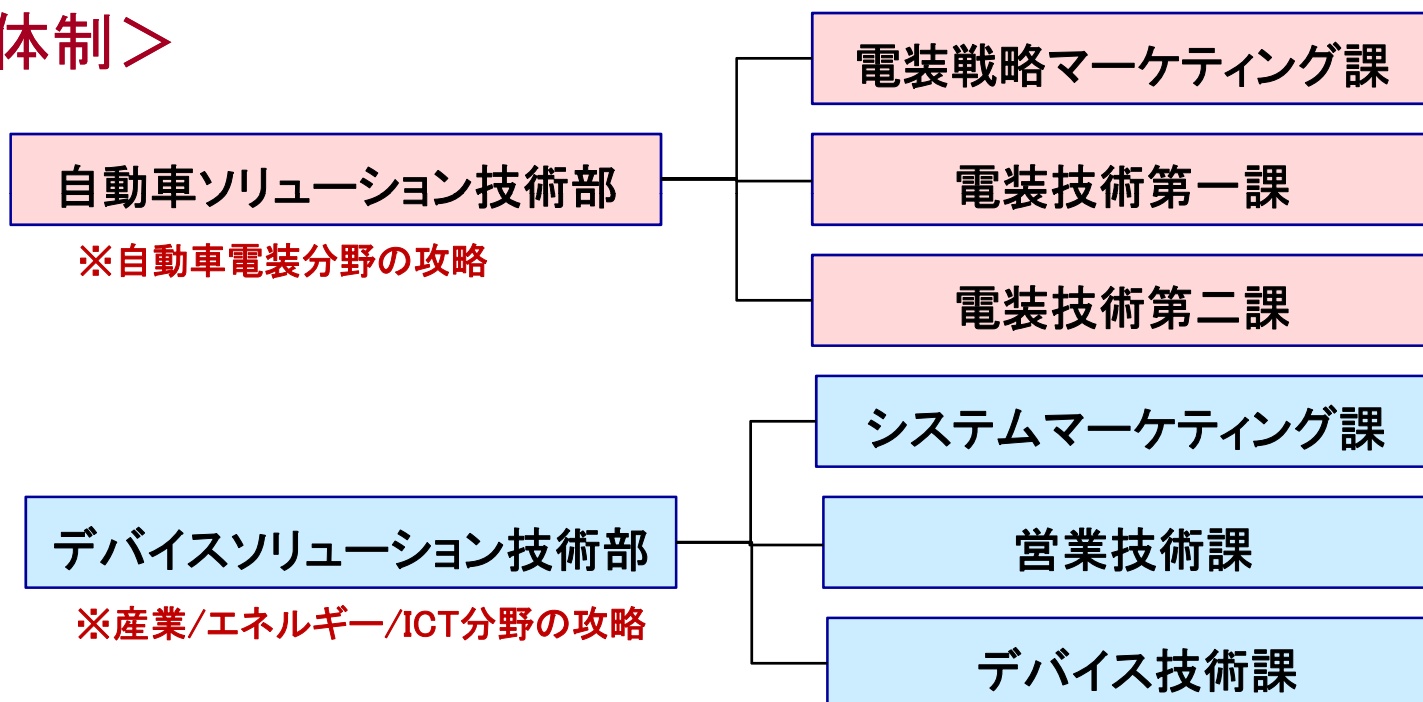
昨年度は車載顧客向けの好調により、売上500億円を達成

1.ルネサスエレクトロニクスとのビジネスについて②

【マーケット別拡販体制の構築】

従来よりルネサス製品拡販を担当していたソリューション技術部を、二部署に分割いたしました。

<新体制>



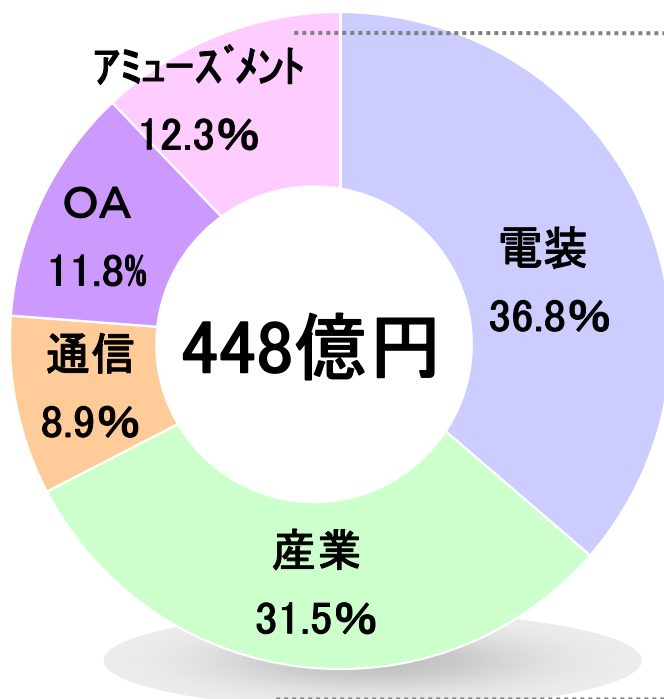
新部署の役割

- ①ルネサスのマーケット別攻略方針と連携した拡販体制の構築。
- ②マーケティングに特化した部課を設置し、情報収集力/提案力を強化。
- ③地域/顧客に密着した営業部隊との連携強化。

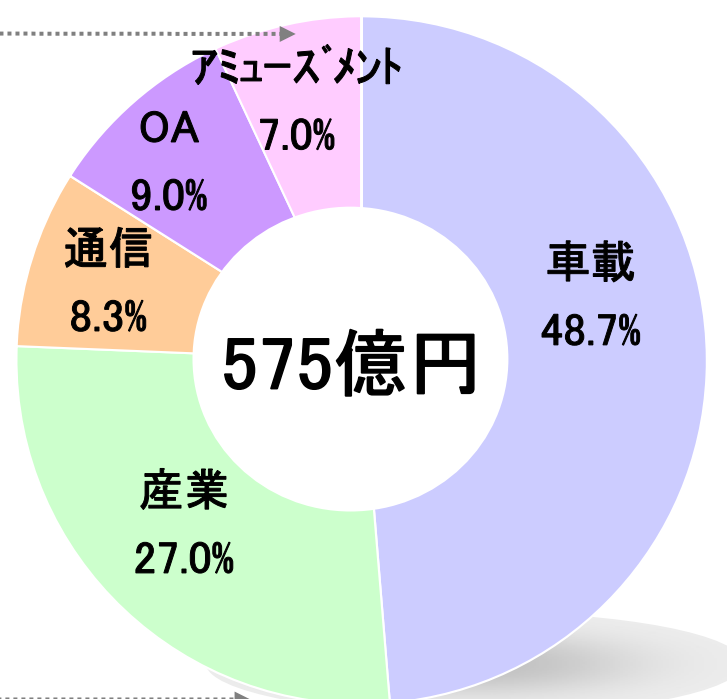
1.ルネサスエレクトロニクスとのビジネスについて③

【分野別売上 前年度比較】

【13年3月期実績】

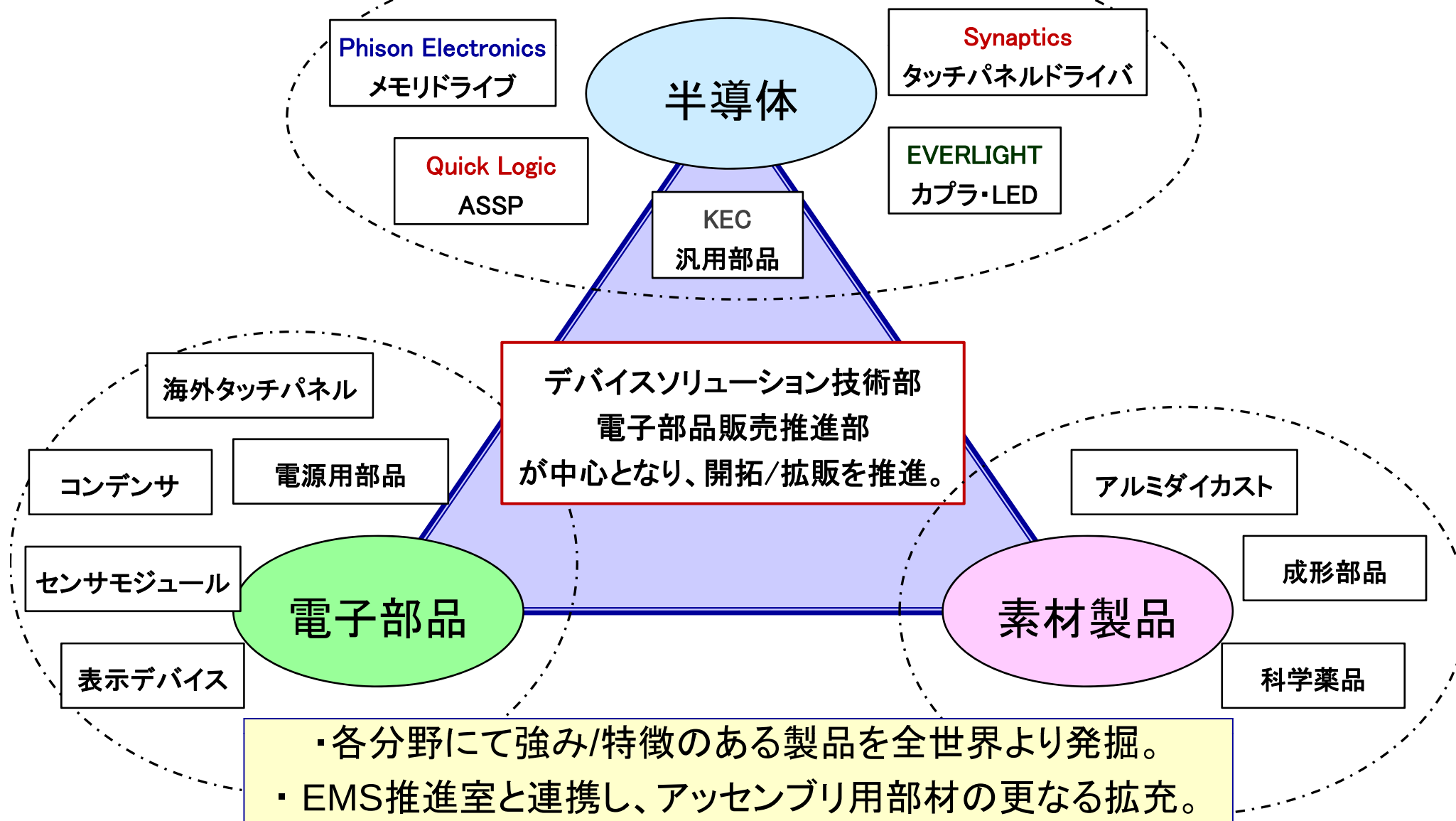


【14年3月期実績】



2.新規仕入先の開拓について

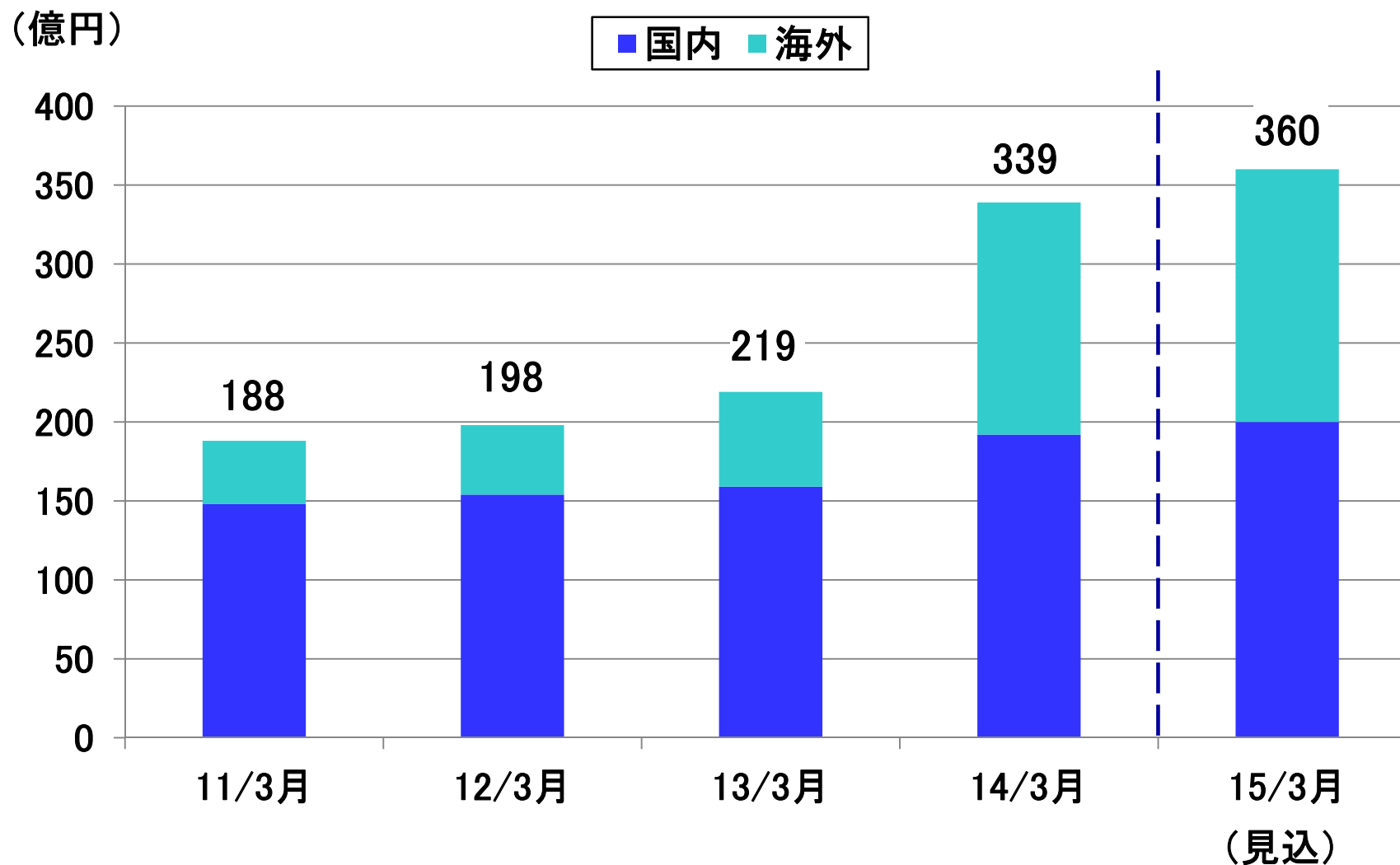
【取扱いを開始／検討中の製品群】



3.車載・産業関連ビジネスへの取組みについて①

【車載分野 売上推移】

2014年3月期は、海外での新規案件を多数獲得した事により、**前年度比155%**の大幅増。



3.車載・産業関連ビジネスへの取組みについて②

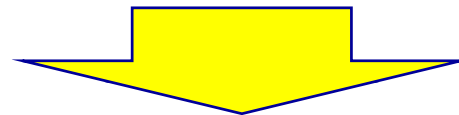
【モータ分野ビジネスの推進】

今後、発展が見込まれる自動車向けモータビジネスへの本格参入。

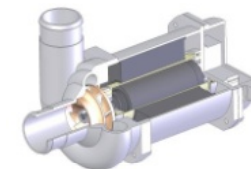
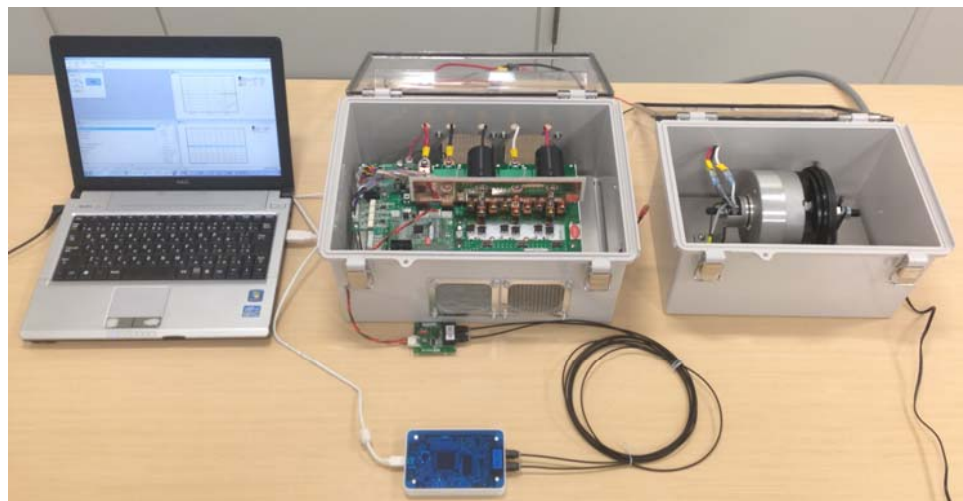
【ターゲット】

製品：EPS、ポンプ、ファン等(24/12V 200～300W)

顧客：国内の大手モーターメーカー、アジア(中国、インド等)のローカルメーカー



当社オリジナルのブラシレスDC開発システムを活用し、モータの実測/検証作業、ソフトの受託開発等のサービスを提供。



Pumps



FANs



3.車載・産業関連ビジネスへの取組みについて③

【アジア 二輪市場の開拓開始】

中国、インドを中心に成長を続けるアジア二輪市場をターゲット

【ターゲット製品】

二輪メーター、FI(Fuel Injection)制御

【施策】

中国のシステムハウスと協業し、中国・インドでの市場開拓に着手。

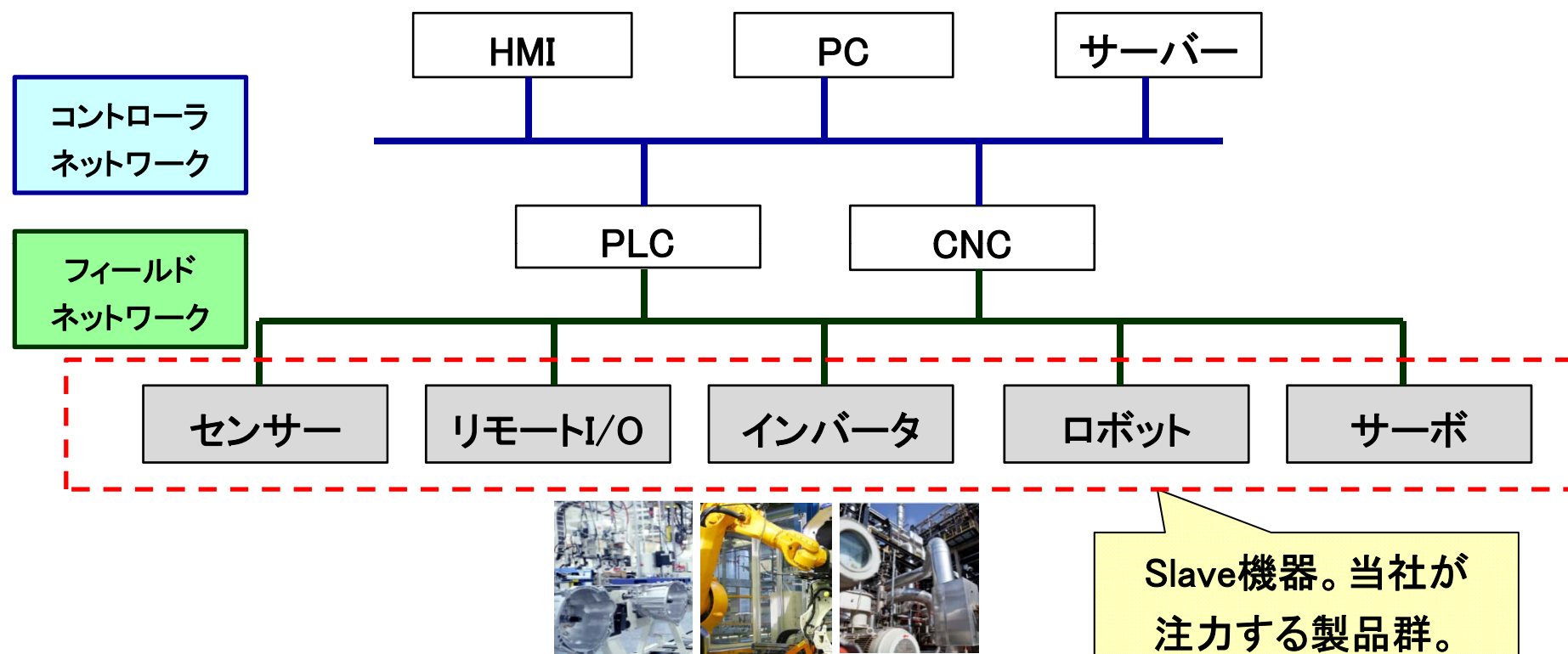


3.車載・産業関連ビジネスへの取組みについて④

【産業ネットワーク分野の攻略】

フィールドネットワーク(Slave機器)に注力した拡販活動

<FA機器ネットワーク>



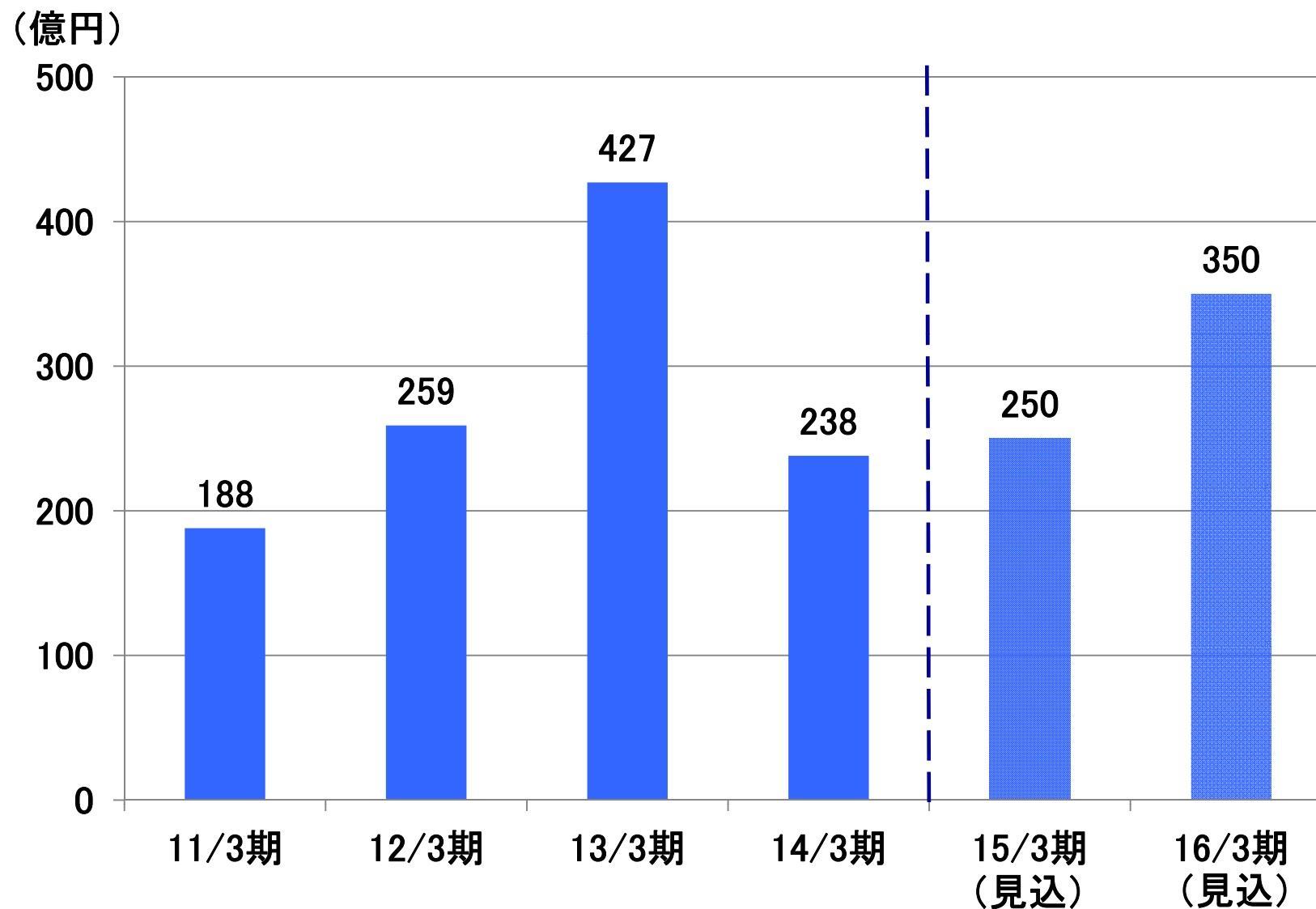
<拡販施策>

協力会社と共同でオリジナル評価ボードを開発。顧客の開発/検証作業を多角的に支援。

⇒部品販売ビジネス・EMSビジネスの更なる拡大へ繋げる。

4.アッセンブリビジネスの状況について①

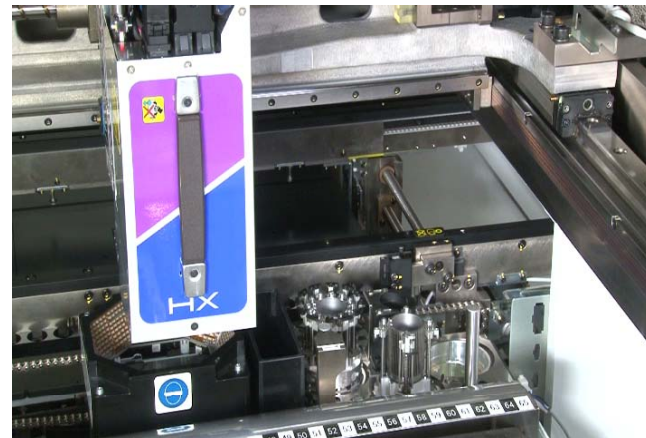
【売上推移】



4.アッセンブリビジネスの状況について②

【Shinko Assembly China(SAC)の設備増強について】

更に競争力のある工場へのステップアップの為に、約3億円の費用を投資して、最新の実装設備を購入しました。



- Q: 高品質・実装不良ゼロの実現
- C: コスト重視のスペース有効活用と安心設計
- D: 計画通りの確実な生産を実現

当社のEMSビジネスの旗艦工場として、新規案件の獲得、
生産の更なる拡大に努めて参ります。

4.アッセンブリビジネスの状況について③

【アジア地区における取組】

新たな市場として中国東北部へ
EMS事業を拡大。ローカルの
EMS業者と提携。

自社工場(SAC)の設備増強

- | | | |
|---|--------|------|
| ★ | : 自社工場 | 1拠点 |
| ★ | : 協力工場 | 29拠点 |
| ★ | : 投資工場 | 1拠点 |
| ★ | : IPO | 4拠点 |

瀋陽
大連

中国華東
★(1)
★

日本
★(15)
★

中国華南
★(6)
★

タイ
★(2)
★

フィリピン
★(2)

マレーシア
★(2)

シンガポール
★

インドネシア
★(1)

5. 娯楽機器事業の現状と見通し①

【新組織の設立について】

娯楽機器向けビジネスの更なる拡大に向け、
2014年4月1日付でアミューズメント営業部を
新設致しました。

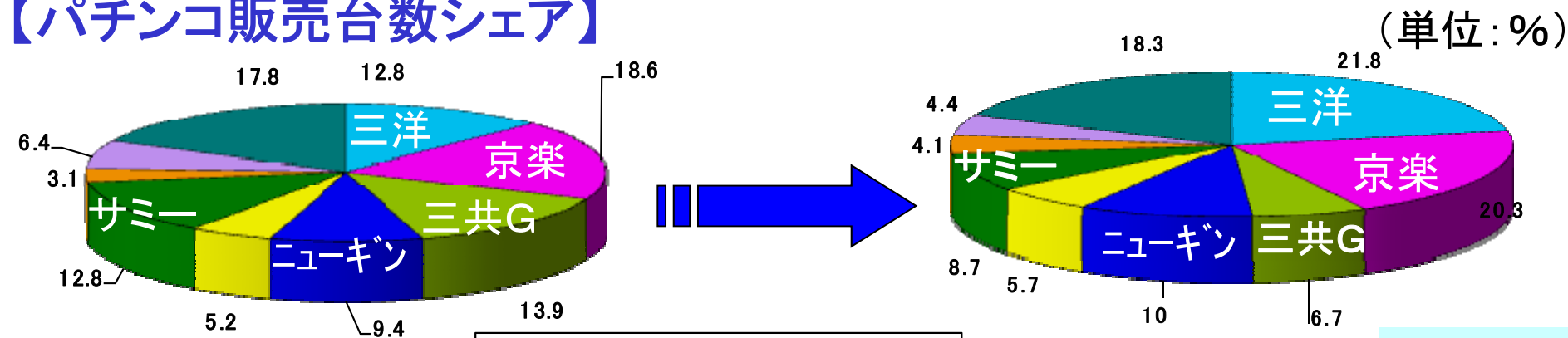
<新部署の役割>

主要顧客へのサポート体制強化

- － 新規商材の発掘/取扱い機能強化
- － EMS推進室との連携促進
- － 関連会社(ノバラックスジャパン)との連携による
エンベデッドビジネス推進

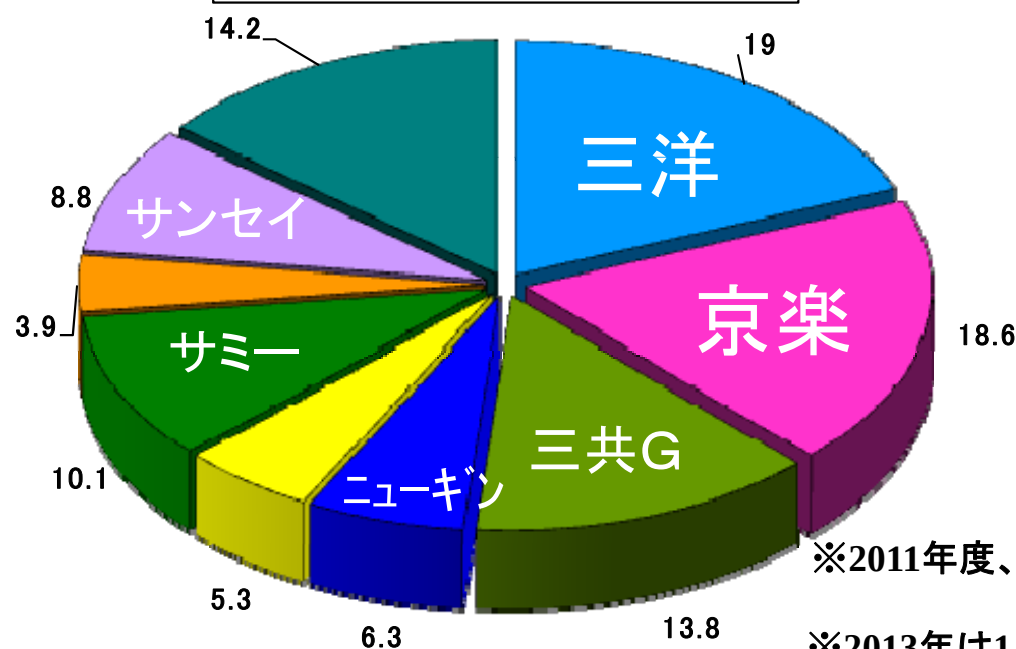
5. 娯楽機器事業の現状と見通し②

【パチンコ販売台数シェア】



2011年度

2012年度



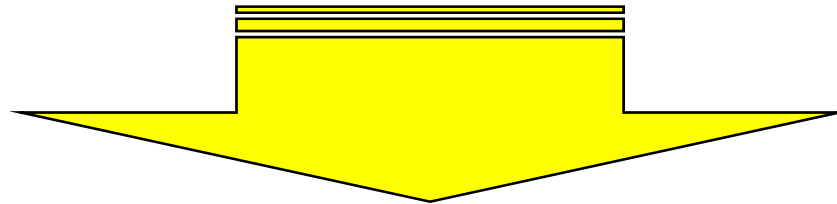
2013年
当社予測

※2011年度、2012年度は各社決算月に基づき算出
出展: 矢野経済研究所
※2013年は1月～12月の累計販売台数(当社予測)

5. 娯楽機器事業の現状と見通し③

【2015年3月期の見通し】

当社顧客は好調を維持するも、部材のリユース率が高まる傾向により当社からの部材納入は減少傾向。



- **通期では前年度比で微減を見込む。**
- **新規商材の積極拡販により、売上挽回を図る。**



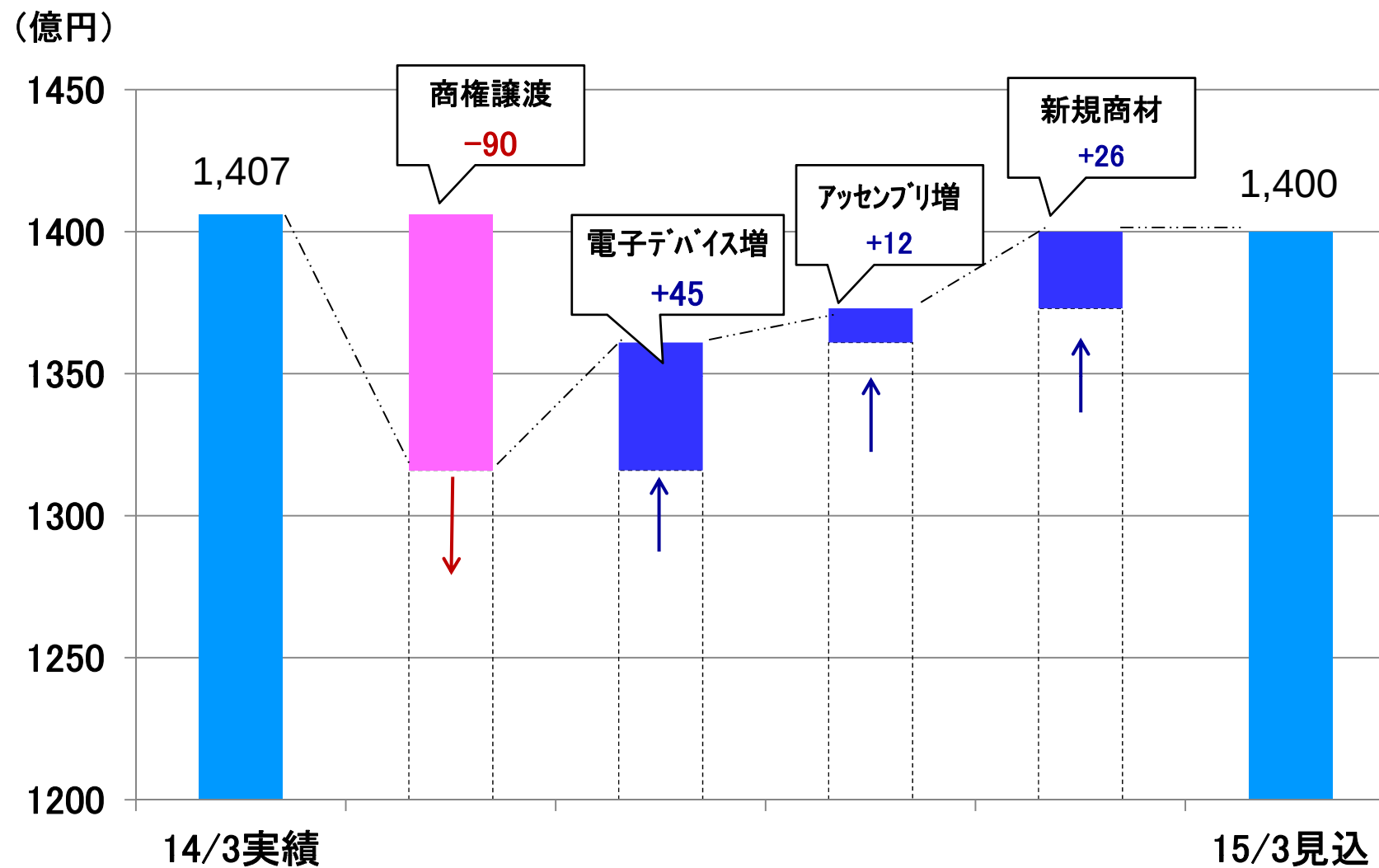
2015年3月期の見通し

通期業績見通し

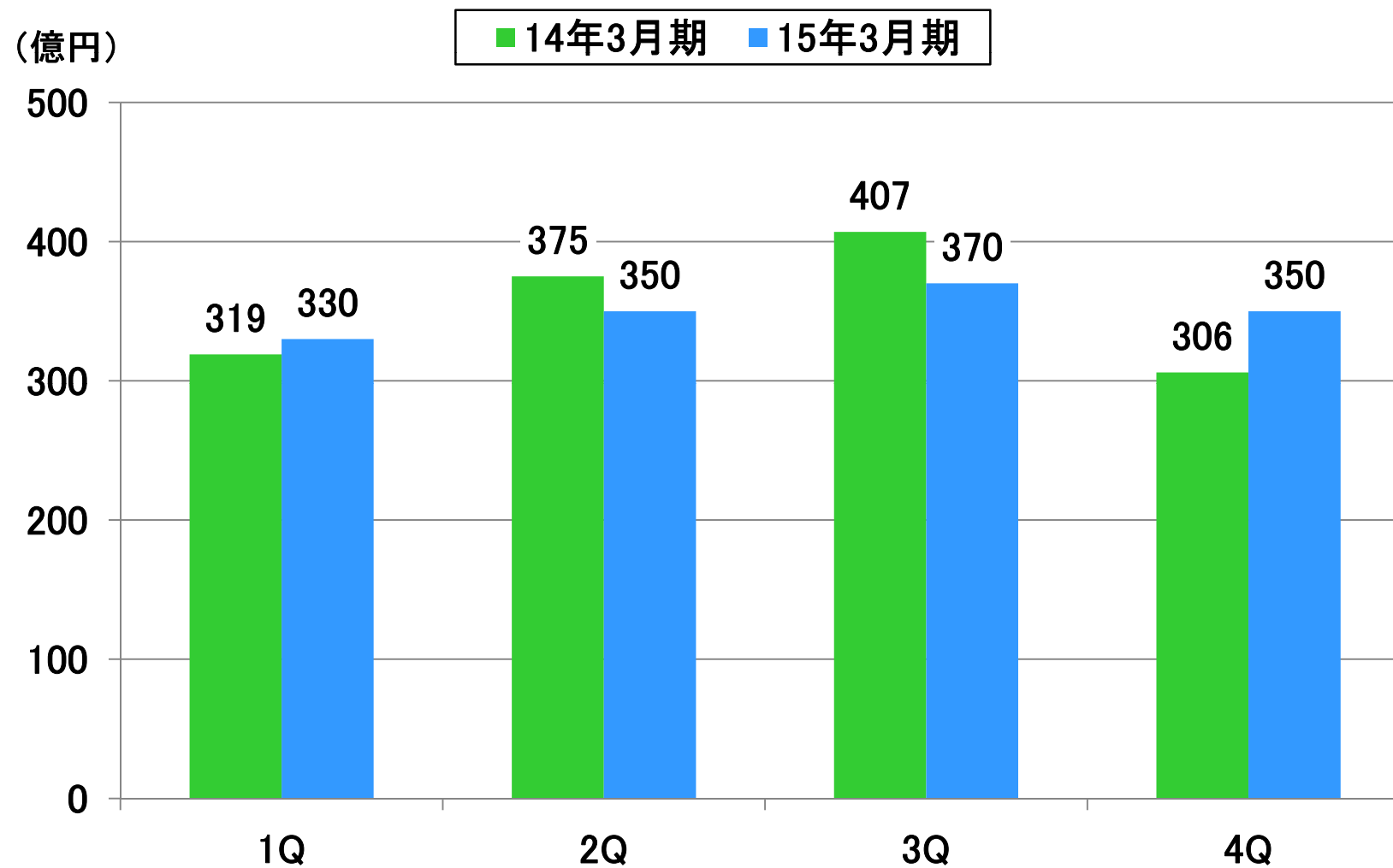
(百万円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期 見込	前期比	増減額
売上高	140,652	140,000	100%	△652
営業利益	4,075	4,000	98%	△75
経常利益	4,088	4,000	98%	△88
当期純利益	2,718	2,300	85%	△418
1株当たり 当期純利益	114円62銭	96円96銭	—	17円66銭

前年度比 売上増減要因分析



通期業績見通し(四半期別売上高)



株主還元について

● 1株当たり配当金

	2014年3月期 実績	2015年3月期 (予想)
第2四半期	15円00銭	15円00銭
期末	25円00銭	15円00銭
年間	40円00銭	30円00銭

※2014年3月期の期末配当は、TI事業譲渡により特別利益が計上された事に伴い、
 期末に特別配当10円を増配。

ご清聴ありがとうございました。

新光商事株式会社

取締役 正木 輝

企画室 沖田 和夫

Tel: 03-6361-8062

Fax: 03-5437-8481

E-mail: t-masaki@st.shinko-sj.co.jp
okita@st.shinko-sj.co.jp

住所: 〒141-8540

東京都品川区大崎1-2-2

アートビレッジ大崎セントラルタワー13階

HP: <http://www.shinko-sj.co.jp>